

|             |                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 氏 名         | 波崎 由美子<br>(なみざき ゆみこ)                                                                                                                                                                                                       |
| 学 位 の 種 類   | 博士(看護学)                                                                                                                                                                                                                    |
| 学位授与番号      | 甲博看第6号                                                                                                                                                                                                                     |
| 学位授与年月日     | 令和4年3月2日                                                                                                                                                                                                                   |
| 学位授与の要件     | 学位規則第4条第1項該当                                                                                                                                                                                                               |
| 学 位 論 文 題 名 | 若年乳がん患者の妊孕性意思決定に対するがん・生殖領域看護師の実践、<br>態度と課題<br>(Practice, Attitude and Issues of Oncology / Reproductive Medicine<br>Nurses on Decision-Making Process regarding Fertility Preservation<br>in Young Breast Cancer Patients) |
| 論 文 審 査 委 員 | (主) 教授 田中 克子<br>教授 佐々木 綾子<br>准教授 寺口 佐與子                                                                                                                                                                                    |

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

### <<緒言>>

わが国の生殖可能年齢にある女性に最も多いのが乳がんである。乳がんは、30歳代から罹患率が増加し、女性が妊娠・出産し親になっていく時期と重なる。近年、がん治療の進歩による生存率の上昇とともに、生殖医療技術の進歩、普及が相まって、生殖可能年齢にある女性のがん治療後の妊孕性の保持に対する支援が推奨されている。しかしながら、厚生労働省の報告では意思決定に必要な妊孕性保持に関する情報が提供された40歳未満のがん患者の割合は38.0%と低い現状にあり、その改善と意思決定支援方法の確立が喫緊の課題である。そこで、乳がん医療と生殖医療に携わる医師および看護師による若年女性乳がん患者の妊孕性温存への情報提供・意思決定支援に関する現状と課題を関連する国内外文献レビューにより明らかにした。さらに看護師から若年乳がん患者への妊孕性温存に関する情報提供ならびに意思決定支援の際の看護実践、態度と課題に関する質問紙調査を本邦で実施し、その結果から適切な若年乳がん患者への妊孕性に関する意思決定看護支援のあり方を検討した。

### <<目的>>

本研究目的は、がんと生殖領域の看護師は、若年がん患者に対してどのように妊孕性に関する情報提供にかかわり、意思決定を支援しているのか、その実践と課題を明らかにすることであり、2段階で研究を展開した。第1研究は、文献レビューにより若年女性乳がん患者に対する妊孕性温存への情報提供、意思決定支援に関する現状と課題を明らかにし、患者への適切な意思決定支援について検討することを目的とした。第2研究は、若年乳がん患者への妊孕性に関する情報提供ならびに意思決定支援の際の看護実践、態度と課題について、がん領域および生殖領域の看護師の妊孕性意思決定支援における連携・役割の現状ならびに課題について明らかにし、適切な若年乳がん患者看護のあり方を検討することを目的とした。

### <<方法>>

第1研究では、医師および看護師による若年女性乳がん患者への妊孕性温存の情報提供および意思決定支援に関して「若年性乳がん」「乳がん」「がん・生殖医療」「妊孕性温存」「情報提供」「意思決定」「意思決定支援」の検索語を単独、または組み合わせて原著論文で絞り込み検索をかけ、16文献を分析対象とした。第2研究では、全国のがん診療連携拠点病院、妊孕性温存について相談できる生殖医療機関、計447施設のがん・生殖領域看護師各1名に対して郵送による質問紙調査を実施した。調査内容は、象者背景、施設連携形態、情報提供の実際10項目、妊孕性意思決定支援の看護実践25項目、看護師の態度8項目・課題11項目を5段階リッカート法により回答を求めた。各項目について記述統計を求め、がん・生殖領域別、連携形態別、支援状況別に2群比較した。

### <<結果・考察>>

第1研究では、妊孕性温存に関する情報提供はすべての若年乳がん患者には行われておらず、患者の意思決定支援には、乳がん医療と生殖医療に携わる医師および看護師の連携を構築することが課題であることが示された。また、看護師は若年乳がん患者に対して、乳がん治療と妊孕性温存治療に関する情報を提示する、それらの情報についての理解度と意思を確認する、理解を促すなど患者に寄り添った支援を行っていたが、乳がん治療の開始までに患者本人が納得できるライフプランを選択できるような支援することの難しさおよび限界を認識する中、患者の不確かなライフプラン形成を支援しているのが実情であった。

第2研究では、妊孕性意思決定支援には多様な専門・認定看護師が携わっていたが、妊孕性支援に取り組んでいる施設は約半数で他施設連携が主流であることが示された。妊孕性に関する情報提供ではがん・生殖領域の看護師間で役割が分担されていること、

領域、連携形態の違いによって若年乳がん患者に提供する情報内容が相違する可能性が示された。看護実践では領域によって関与できる時期・時間に差はあったものの、両領域において若年乳がん患者に対して説明内容の理解の確認や促し、心理的支援を実践しており、施設の妊孕性支援取り組みの有無による妊孕性温存の重要性認識にも差はなかった。

#### <<結論>>

看護師による若年女性乳がん患者へのより良い意思決定支援のためには、診療科を超えたチームとしての連携・協働とともに意思決定支援教材の開発と評価が必要であり、パートナーや家族を含めた意思決定支援への取り組みの重要性が示唆された。今後は、専門分野・領域看護師間での役割明確化、チームとしての役割分担と連携を実現することにより、妊孕性意思決定を行わねばならない若年乳がん患者に迅速で適切な情報提供を行い、支援する必要がある。

### 論文審査結果の要旨

生殖医療技術の進歩、普及が相まって、生殖可能年齢にある女性のがん治療後の妊孕性の保持に対する支援が推奨されている。40歳未満の若年乳がん患者への妊孕性温存に関する情報提供ならびに意思決定支援の際の看護実践、態度と課題に関する質問紙調査を実施し、その結果から適切な若年乳がん患者への妊孕性に関する意思決定看護支援のあり方を検討した。

第一研究は、文献レビューを実施するに際して、医学中央雑誌 Web 版、PubMed、CINAHL を用い、医師および看護師による若年女性乳がん患者への妊孕性温存の情報提供および意思決定支援に関して「若年性乳がん」「乳がん」「がん・生殖医療」「妊孕性温存」「情報提供」「意思決定」「意思決定支援」の検索語を単独、または組み合わせて原著論文で絞り込み検索をかけ、16 文献を抽出し分析対象とした。結果、妊孕性温存に関する情報提供はすべての若年乳がん患者には行われておらず、患者の意思決定支援には、乳がん医療と生殖医療に携わる医師および看護師の連携を構築することが課題であることが示された。

第二研究は、全数の質問紙調査を実施した。全国のがん診療連携拠点病院、妊孕性温存について相談できる生殖医療機関、計 447 施設のがん・生殖領域看護師各 1 名に対して質問紙を郵送する方法で実施した。調査内容は、対象者背景、施設連携形態を選択法により、情報提供の実際 10 項目、妊孕性意思決定支援の看護実践 25 項目、看護師の態度 8 項目・課題 11 項目を 5 段階リッカート法により回答を求めた。各項目について記述統計を求め、がん・生殖領域別、連携形態別、支援状況別に 2 群比較した。質問紙調査の結果、施設の妊孕性支援取り組みの有無による妊孕性温存の重要性認識にも 2 群間に差はなかったという結果を得た。審査において、テーマは重要な課題であるため論文に、今後の看護の展望を加筆することを求めた。結果、「看護師による若年女性乳がん患者へのより良い意思決定支援のためには、診療科を超えたチームとしての連携・協働体制の構築、意思決定支援教材の開発と評価が必要であり、パートナーや家族を含めた意思決定支援への取り組みの重要性が示唆された」と今後の看護の方向性が加筆された。

以上より、本論文は本学大学院学則第 13 条第 3 項に定めるところの博士(看護学)の学位を授与するに値するものと認める。

(主論文公表誌)

大阪医科薬科大学医学会雑誌, 81 巻, 第 1・2 号: 1-11, 2022 年 9 月発刊。